

千葉県八千代市木戸前遺跡

発掘調査報告

1 9 7 6

木戸前遺跡発掘調査団
日 本 住 宅 公 団

例 言

1. 本書は、千葉県八千代市大和田字木戸前に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 本遺跡の発掘調査に関する費用は日本住宅公団が負担した。
3. 発掘調査は昭和50年7月21日に開始し、昭和50年8月2日に終了した。
4. 本報告書の作成は佐藤克巳が行った。
5. 発掘調査の写真及び遺物の写真は佐藤が行った。遺物の実測及び拓本は中山吉秀氏を
わずらわした。

序 言

近年文化財の重要性が認識され、とくに埋蔵文化財の保護は市町村の重要な仕事の一つとなっています。八千代市においてもここ1～2年の間に、おおびた遺跡、村上供養塚、佐山貝塚等の調査を行ないました。

日本住宅公団関係でも昭和48年に村上団地内所在の村上遺跡調査で大規模な集落が発見され、本市の文化史に貴重な一頁を加えることができました。このたび、高津団地に隣接した公団の建築予定地、新木戸が埋蔵文化財の遺跡分布地ということで、今回の調査となったわけです。

この報告書が、八千代市の歴史を知る資料の一部となれば幸いです。

最後に、本報告書の刊行にあたり、夏の炎天下の中で現場調査にあられた佐藤克巳氏、調査員の方々、ならびに作業員の方々、また、調査にご協力をいただいた岩井産業株式会社の方々の太田英之氏、その他関係各位に対し、深甚なる謝意を表すしだいです。

昭和51年 3月

新木戸遺跡調査会長
八千代市教育委員会教育長

市 川 浩 一

目 次

例 言

序 言 調査会長・八千代市教育長 市川浩一

I. 調査にいたるまでの経過	2
II. 遺跡の位置	3
III. 調査の方法および経過	3
IV. 遺跡の状況および土層	7
V. 結び	9

挿図目次

- 第1図 遺跡付近図
- 第2図 遺跡の調査範囲
- 第3図 木戸前遺跡トレンチ及びグリッド配置図
- 第4図 木戸前遺跡土層層位図
- 第5図 木戸前遺跡の出土遺物

図版目次

- 図版1 発掘前の状況
 - 測量, トレンチ設定作業
 - 土層層位実測
- 図版2 遺跡全景(調査終了後)
 - C02~92トレンチ及び土層の状況
- 図版3 B02~32トレンチ及び土層の状況
 - C52~C53のピット遺構及び土層状況
- 図版4 C00~C09トレンチ発掘状況
 - 木戸前遺跡出土遺物

I 調査にいたるまでの経過

近来、首都圏の人口増加率はかなり急上昇である。近いうちに、首都圏だけでも5000万人にも達するとかいらわれている。これに伴い各地に数多くの団地が造成されている。千葉県八千代市高津団地も2・3年前につくられたばかりの団地であるが、この度、更にその高津団地に住宅が増設されることとなった。県文化課文化財主事天野努氏より、住宅予定地の事前調査の依頼が佐藤にあり、地元八千代市教育委員会内に調査事務局がおかれることとなった。発掘調査は佐藤の都合により7月21日より2週間の予定で実施することになった。7月8日には八千代市教育委員会において、県文化課・八千代市教育長市川浩一氏(調査会長)・社会教育課々長山本勲氏・同課文化財担当安達氏及び佐藤は種々打合せを行った。7月17日、器財運搬、補助員の件について、船橋市小室町米井丈夫氏と打合せをする。また、現地脇の岩井産業太田英之氏には器財倉庫及び休憩所・水・便所等を借用することをお願いした。そして、調査会及び調査団の組織を次の如く編成した。

調査会長 八千代市教育長 市川浩一

調査会事務局 八千代市教育委員会社会教育課長 山本勲

同 社会教育主事 安達新

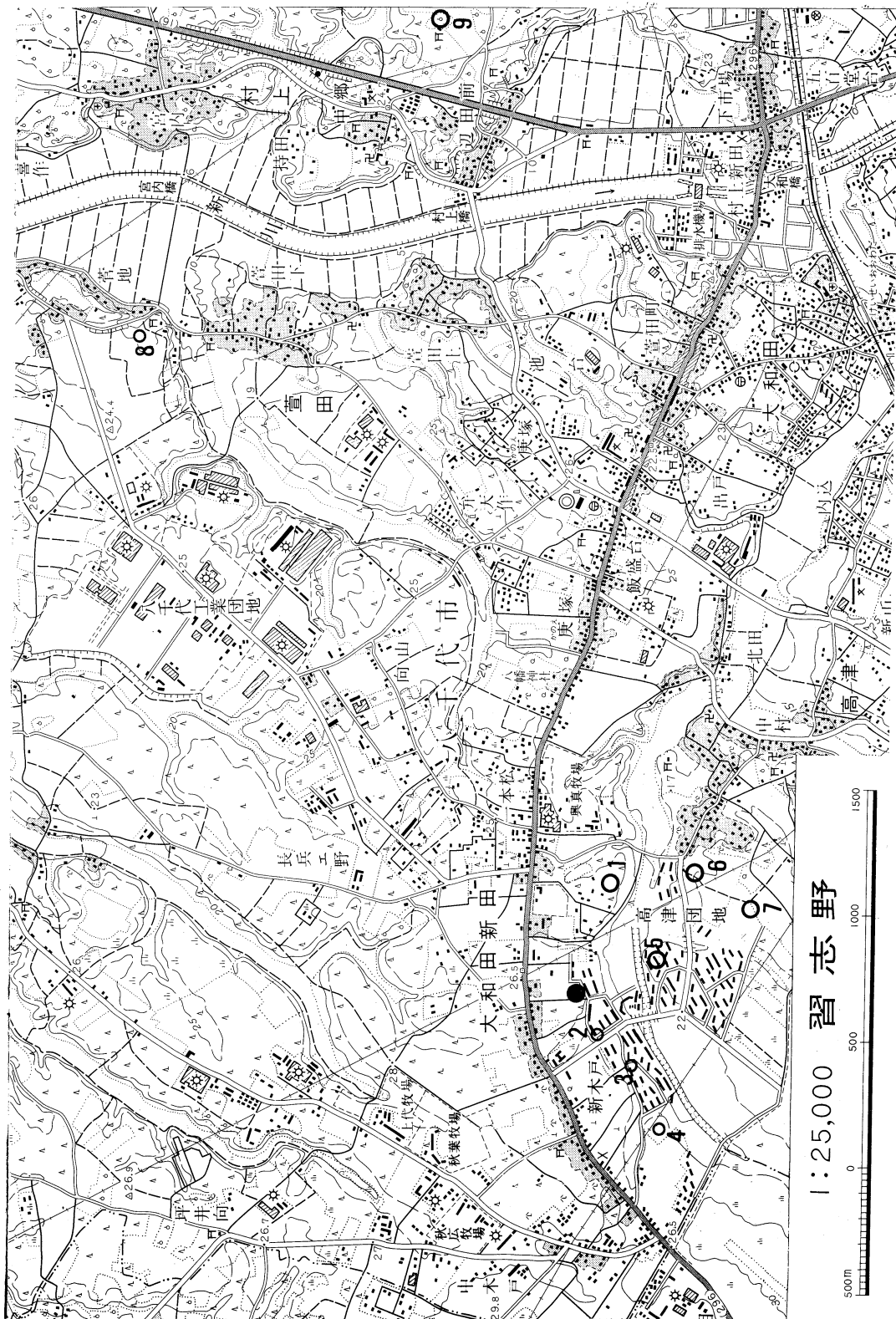
調査団 調査団長及び調査主任 佐藤克巳(県文化財巡回調査員、千葉県立印旛高等学校教諭)

調査員 手島和史(千葉県立印旛高等学校教諭)

調査補助員 星忠、立石正俊、野中勇、颯佐正志、山本和美、荒井美恵子、本間一枝、海老原弘美、中島順子、石井郁子、石井喜代美、成島君江、羽石孝子(以上、印旛高校社会科研究会)

米井丈夫、笠川俊湯、武藤啓男、武藤つね、武藤もと、武藤とみ、小野よし、原ふみ、石井輝代、山崎美枝子、渡辺ふみ、露木三子、笠井せき、岡田さい、香取ふみ、内藤こう、伊藤はな、内藤くに、米井貞子、高橋つる、高橋まつ、高橋つね、湯浅利治、内藤すい、中村一雄、高橋良助、内藤ちか、湯浅道江、内藤よし、玉井ふみ、飯島みさを、遠藤なか、林田せつ子、五十嵐くら、出浦良子、小野好江、長浜てる、米井すみ江、寺嶋利江、岩崎きみ、松永はる、渡辺房枝、戸村なほ、野村芳枝、岩崎豊、桜井ます、石井信子、山本敦子

この他、県文化課大木衛氏、県文化財センター中村恵次氏、野村幸希氏、天野努氏、中山吉秀氏、古内茂氏、鈴木道之助氏、沼沢豊氏、岩井産業太田英之氏、日本住宅公団等、数多くの方に御協力・御指導いただいたことを記して感謝する次第である。



1:25,000 習志野



第1図 遺跡付近図

II 遺跡の位置

本遺跡は、千葉県八千代市大和田新田新木戸94-1番地に所在する。現在、必ずしも交通の便利なところとはいえない。遺跡は印旛沼に沿ぐ新川の支谷で、八千代市下市場の西方にのびる谷の奥左岸にあたる台地部にあり、標高が約27mの位置にある。高津団地の北辺部にあたる。調査の範囲は、第2図に示すごとく東西約60m、南北約65mの範囲である。このうち、緑地部として原状保存される部分を除いた約2,000m²の範囲が調査指定範囲である。第1次調査としてトレンチ及びグリッド併用の調査方法により調査した。発掘面積は延べ768m²となった。(スクリーントーンの部分)。

木戸前遺跡は、前述の如く印旛沼に沿ぐ新川の支谷の1つに面する台地上にあるもので、新川はさほど大きな川とはいえないが、印旛沼西端より5km程上流右岸に村上遺跡群(第1図-9)が知られるほか、縄文時代の遺跡がかなり存在するようである(『八千代市村上遺跡』報告による)。

木戸前遺跡付近には、『千葉県記念物所在地図』に、高津第1～第7遺跡の存在が記されている(第1図-1～7)。

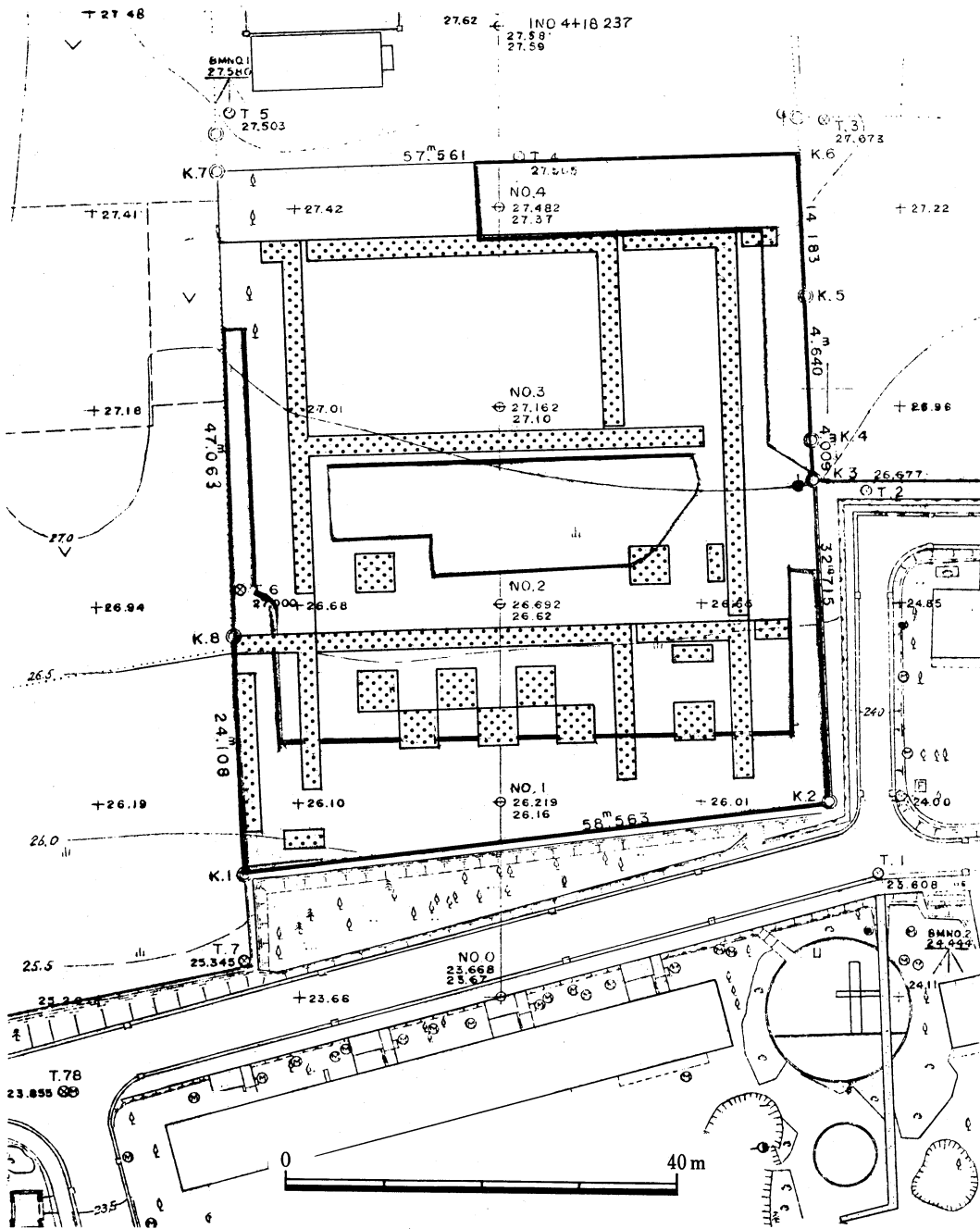
III 調査の方法および経過

調査の方法としては、遺跡全体に4m×4mを基本単位とするグリッドを組んだ。このために全体に40mごとの基準大杭と4mごとの小杭を打った。トレンチは南北3本、東西3本の基本トレンチを設定した。トレンチの幅は2mである。その他に遺跡南半は谷に面する部分であることから、遺構・遺物等の検出される確率の高いことから、トレンチ部以外に千鳥状に4m×4mのグリッドを設定した。遺跡北半については、トレンチにおいて遺物等の発見が多い場合にグリッドを設定することとした(結局、遺物の発見がなかったので調査にはいたらなかった)。また、先土器の発見される可能性もあるので、トレンチ内、或いはグリッド内に幅50cmのサブトレンチを設定し、ハードローム層を約15cm掘り下げた。

調査経過

7月20日(日) 薄曇

遺跡には夏草が1m以上も繁茂しており、発掘に先立って、草刈りから始める。



第2図 遺跡の調査範囲

7月21日（月） 曇後雨

草刈の後かたづけに併行して、調査用の杭打を行なう。また調査前の写真撮影、発掘器材の運搬を行なう。杭打ちの終わったところよりトレンチを設定し、発掘を開始する。トレンチはA00～A09である。午後、雨が降り出す。待機するもやまないので作業を中止する。発掘開始の頃、岩井産業の太田氏が遺跡に来られ、この付近にウレタンを埋めるために穴を掘り、また表土は火災予防上ブルドーザーにより1mほど掘削したとのことで、遺跡の攪乱のはなはだしいことが予測された。

7月22日（火）

曇後晴

昨日に引き続き、測量杭打ちを続行する。トレンチB00～04、B00～40の発掘を継続する。

A00～09の表土20cmほど掘り下げたところ、さきの岩井産業太田氏の話のとおりで、一番上の土



発掘状況

は掘削移動したローム土であり、ブルドーザーにより、かなり掘削を受けていると思われる。

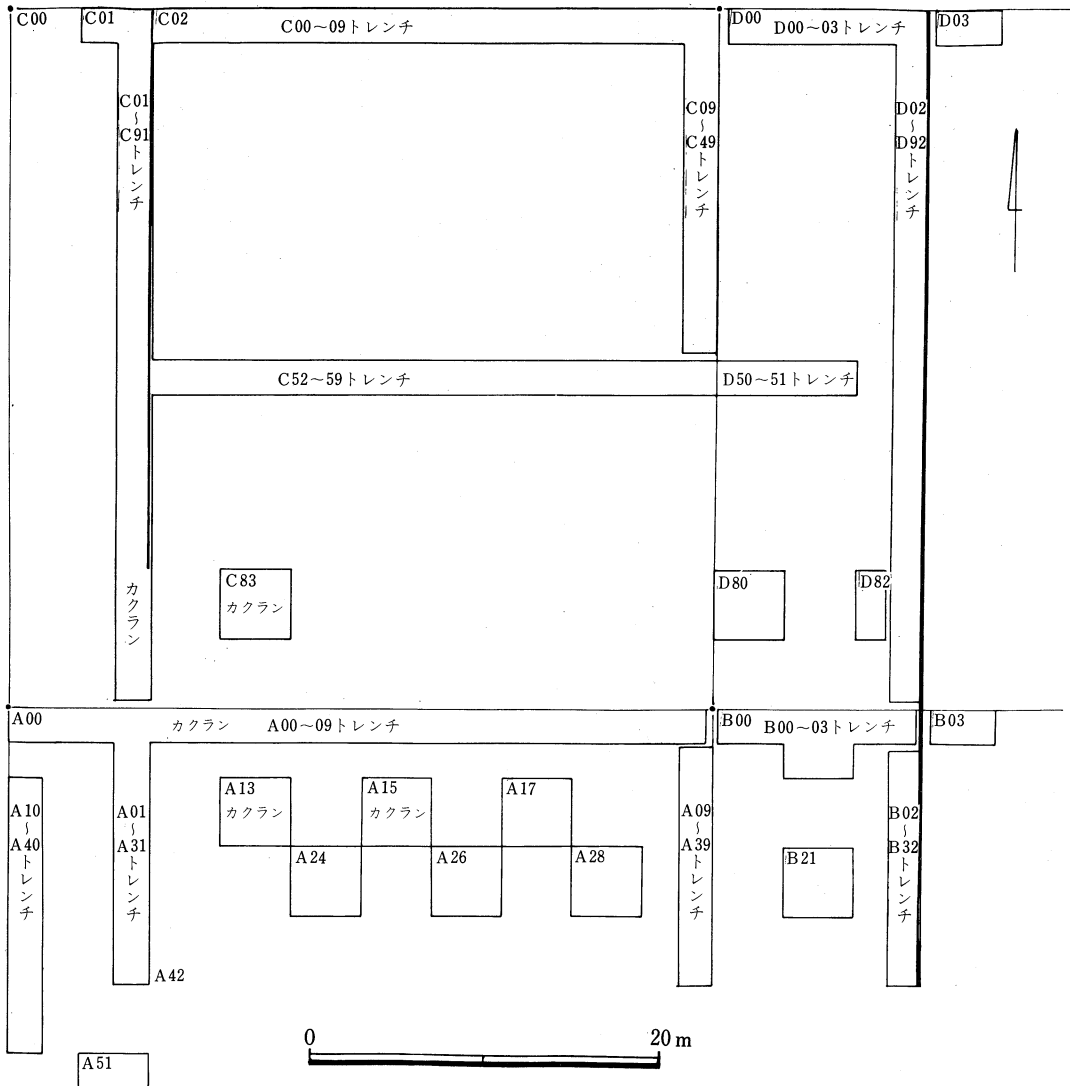
A00～39、B00～03、C09～49のトレンチの調査を行なう。

7月23日（水） 晴

発掘はC09～49、D00～03、C00～09の各トレンチの調査を行なう。C09～49のトレンチでは、地表より20cm、D00～03トレンチでは約40cm、C00～09では約20cmにローム土がのっており、その下に10cmの褐色土（耕作土）がある。新たに杭打ちを行ない、C02～92、A02～32のトレンチを設定する。このトレンチは傾斜地となっており、ロームまで10～15cmである。

7月24日（木） 晴

D02～92のトレンチ、ローム上面まで掘進、D32グリッドに無茎石鏃1点が発見された。B00～03、C01～91トレンチ掘進開始する。表土除去終了。



第3図 木戸前遺跡トレンチ及びグリッド配置図

7月25日（金）晴

C01, 02グリッドを発掘する。C52~59のトレンチの発掘を行なう。

7月26日（土）晴

杭打ち、グリッド設定する。A09~39のトレンチの調査を行なう。

7月27日（日）晴

本日は補助員を25名ほど増強して、グリッドの調査にかかる。A14, A16, A18, A23, A25, A27, B01, B21, C83, D81の10グリッドの調査を行なう。また D50~52トレン

チ、C52～59トレンチの調査を継続する。

7月28日（月） 晴

D81グリッドにてハードルームまで掘り下げる。B21、A27のグリッドの調査を行なう。
A28グリッド掘進、D51グリッドにて若干落ち込みらしきものあり、これを追求する。
A09～39のサブトレンチ、B02～32のサブトレンチ掘進する。

7月29日（火） 晴

D02～32トレンチ、A28グリッドに幅50cmのサブトレンチを設定し、ハードルームまで掘進する。A26グリッド掘進、ルーム上面まで掘進、ここでも何ら遺構・遺物の発見はない。A24グリッド、A10～40トレンチを掘進する。

7月30日（水） 晴

A10～40トレンチ掘進、ルームまでいたる。A41グリッド掘進。A00～09、A02～32、D02～92のサブトレンチ掘進。

7月31日（木） 晴

B00～03、D02～09、B02～32のサブトレンチ掘進、土層セクションの実測にかかる。
D01～91、A01～31、D01～09トレンチの土層セクションを実測する。

8月1日（金） 晴

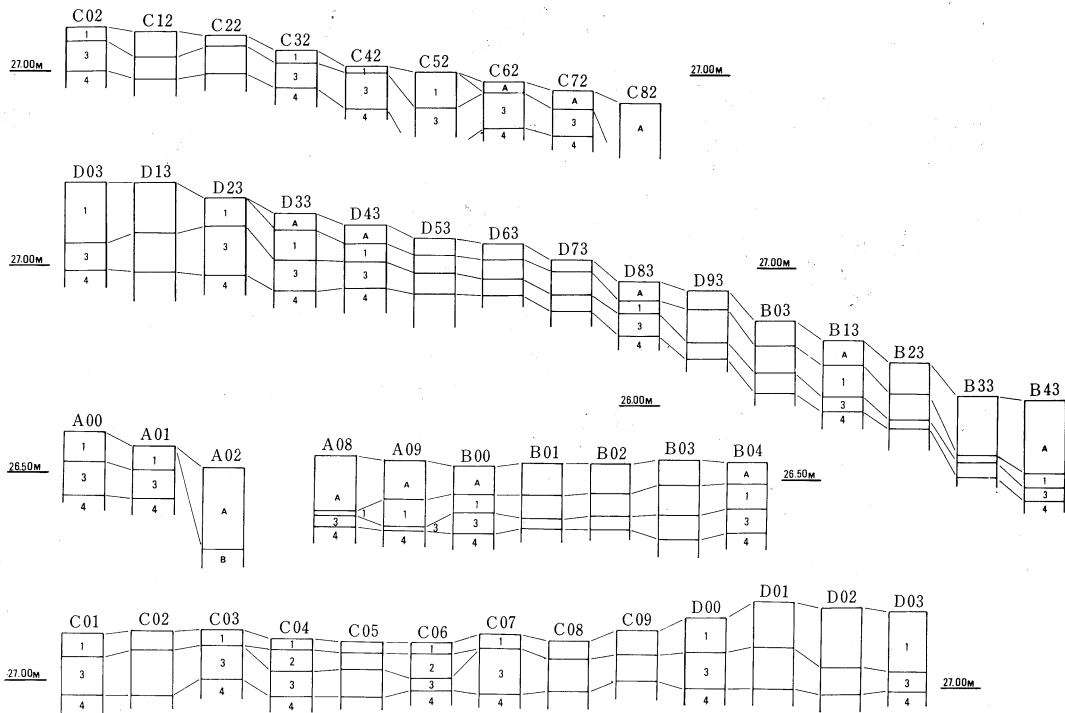
昨日に引続き土層セクションの実測を行なう。また遺跡全体の写真撮影を行なう。

8月2日（土） 晴

遺跡の補充調査を行ない、あとかたづけを行なう。器財運搬する。

IV 遺跡の状況及び土層

調査前の遺跡はかなり夏草が繁っている状況で、草刈より調査が開始された。この遺跡の地は畑地であったようであり、遺跡に接する西側の地は現在畑地として使われている。台地周囲は既にかかなり変化しており、台地先端部と思われる部分は高津団地の一部としてすでに削平されている。調査の始まるころの段階に、この遺跡の北側に工場をもつ岩井産業株式会社総務部長太田英之氏等に話を聞いたところ、岩井産業が廃棄物ウレタンを遺跡



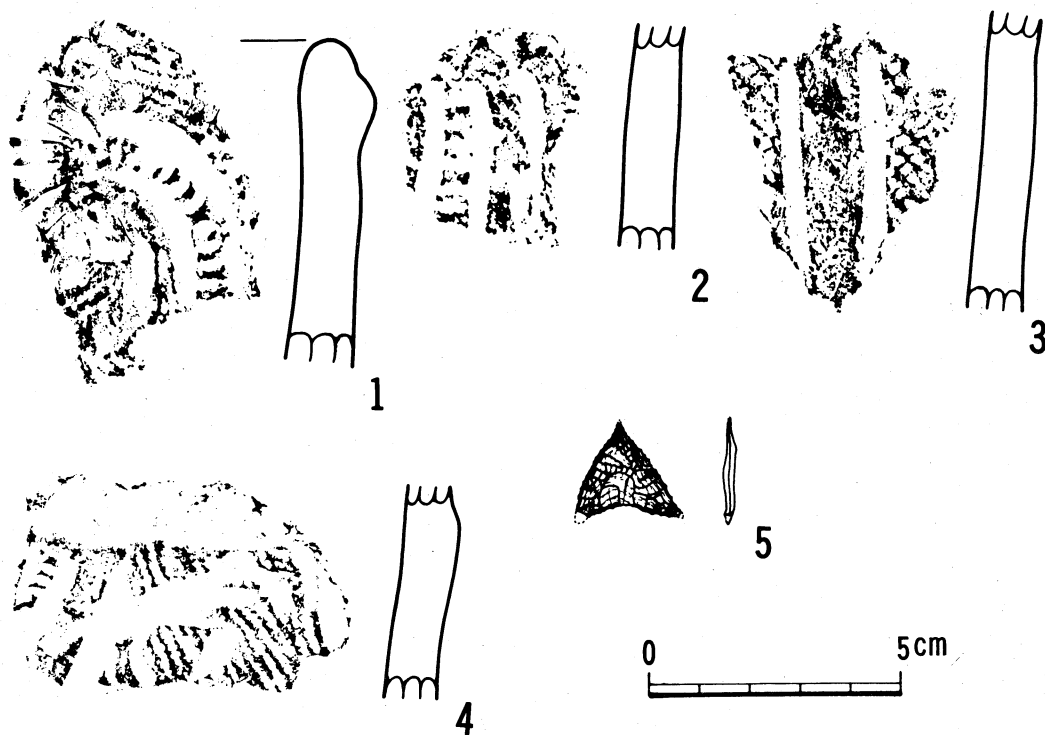
第4図 木戸前遺跡土層層位図

の数ヶ所にブルドーザーによって1 m以上の穴を掘って埋めたとのことである。また、同じく、遺跡が荒地となって草が生い繁っていたことから、火災予防ブルドーザーによって草刈を行なったとのことである。以上のことから遺跡がかなり荒らされていることが予想された。

土層は、以上のことから旧状を保っている部分はほとんどなく、畑地としての耕作土層(1)の上にローム土の盛土(A)が30~50cmほどのっかっており、耕作土の下はほとんどがローム土層(3・4)に直接つながる、わずかにC04~06にて褐色土層(2)が認められる。また、遺跡西南側は、現地表より1 m以上の攪乱層となっていた。このため、仮に遺構が存在していたとしても削平された可能性が強い。

遺物は上記の如く、当遺跡がかなり攪乱を受けていたことにより、わずかに縄文土器片4点、石鏃1点が発見されたにすぎず、また縄文時代のものと思われる遺構も検出されなかった。ただC52~53グリッドにおいて長軸2.5 m、短軸1.8 m、深さ40~45cmの矩形のピットが検出されたが、遺物はまったく認められず、土層から見ると縄文時代のものと思われず、ごく新しい時期のものと思われる。

遺物1, 2は縄文時代中期初の勝坂式土器のものと思われる。3, 4は加曾利E式土器と思われる。石鏃についても同時期の頃のものであろうか。付近遺跡においても加曾利E式土器の出土が何ヶ所か知られている(『村上遺跡』参照)。



第5図 木戸前遺跡の出土遺物

V 結 び

当遺跡の調査は充分の成果をあげたとはいえない。それというのも当初調査の計画をした段階では、縄文土器の散布もあり、充分遺構・遺物の検出されることも予想されたが、岩井産業によるウレタン廃棄作業による攪乱や火災予防上のブルドーザー等により、思いのほか遺跡が荒されてしまったこと、このことは多分に他地域でも予想されることであり、これら埋蔵文化財保護のためには、県文化課などにより十分な分布調査を行ない、遺跡の重要性を土地所有者に十分知らしめておく必要があるかと思われる。しかしながら一般に遺跡のありそうでもない、現在あまり交通上便利なところとはいえないこの木戸前遺跡などの如く、縄文時代中期あたりの遺跡はかなり谷奥などにも存することが確認されたことは貴重な成果といえよう。また、こういったわずかな資料の積み重ねの上に真理が明らかにされていくのではないだろうか。

最後に、この調査の費用を担当していただいた日本住宅公団東京支店関係者をはじめとして、数多くの方々に御協力・御理解をいただいたことに対し、厚く御礼申上げる次第である。(佐藤)

図版 1



発掘前の状況

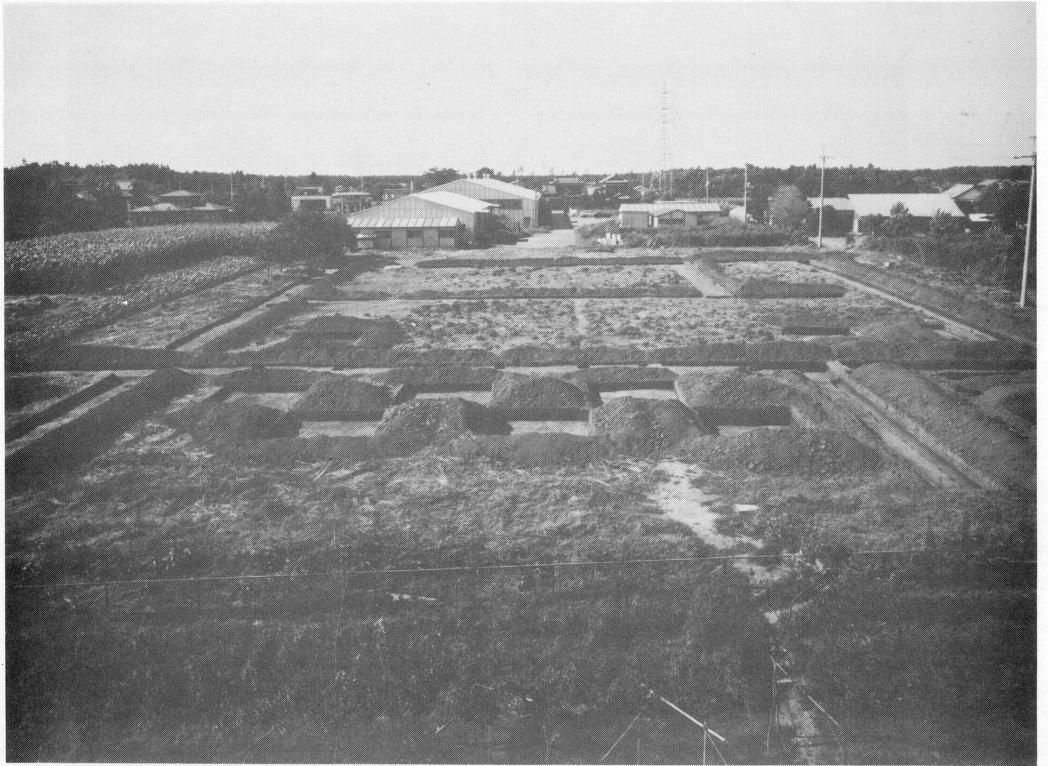


測量, トレンチ設定作業



土層層位実測

図版2



遺跡全景（調査終了後）



C02～92トレンチ及び土層の状況

図版 3



B02～32トレンチ及び土層の状況

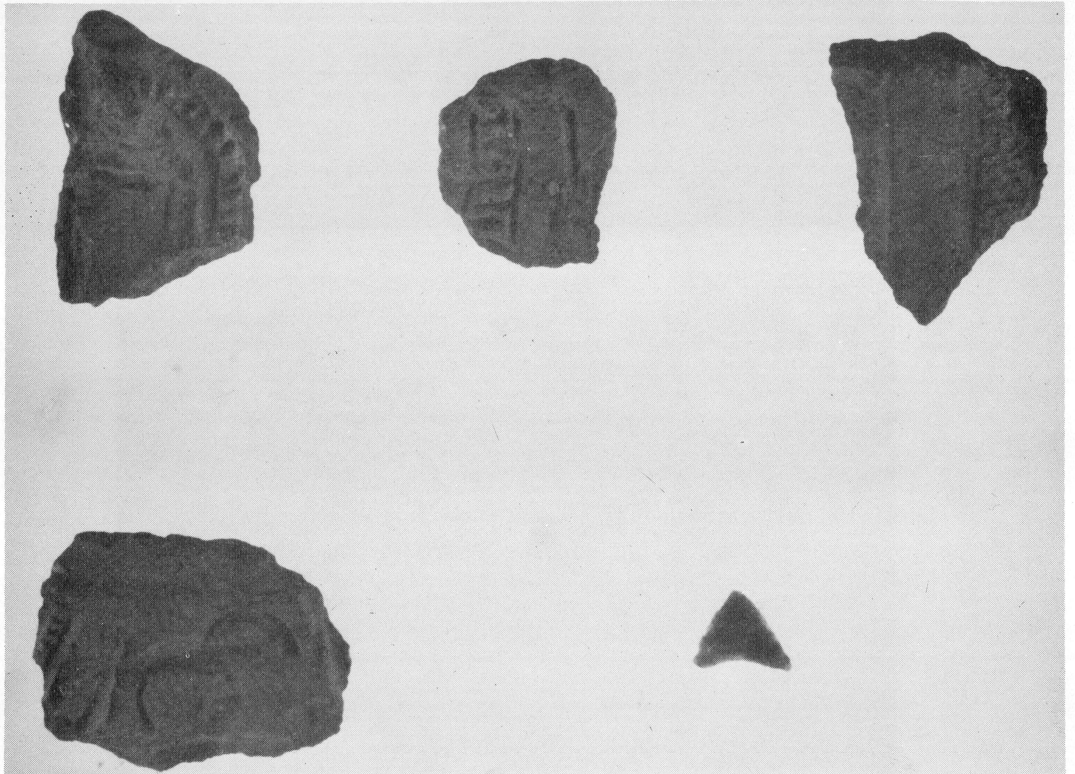


中・下, C52～C53のピット遺構及び土層状況

図版4



C00～C09トレンチ発掘状況



木戸前遺跡出土遺物

木戸前遺跡

発行 昭和51年3月31日

発行者 木戸前遺跡調査会
日本住宅公団東京支社

編集 千葉県印旛郡印西町木下11746-4
佐藤克巳

印刷 千葉県八千代市大和田309
(有) 八千代印刷
